

ヤマハ
ボート

YAMAHA BOAT NEWS NO.38



特集 全国クルージングだより/ヨーロッパマリン情報



二百十日、二百二十日

立春から数えてそれぞれ210日めと220日めにあたる日。現在の暦に直すと九月一日ごろと九月十一日ごろにあたる。一般に台風にくる日として知られているが、統計的な特異日ではない。

台風にくる特異日としては、むしろ九月十六日ごろ……枕崎、アイオン、第二室戸台風など……と、二十六日ごろ……洞爺丸、狩野川、伊勢湾台風など……があげられる。

二百十日についての古い記録は安田茂兵衛尉重次の『全流舟軍の巻』という1634年刊行の当時のボート読本。昔はこの頃が中稲、晩稲の開花期にあたるので台風を恐れた……のが真相のようだ。

本格的な台風シーズンの到来に備えて、ボートの係留、保管をもう一度点検しよう。

クルージング このすばらしき二十四時

今年の夏のはじめは土、日によく台風が襲来し、このため7月のクルージングはほとんどお流れになった。ジャンボなスケジュールを組んで張り切っていた全国のボート仲間は、まっ黒の空を見上げてくやしがつたものだ。

それでも8月になってお天気が少し安定すると、大小の規模の差こそあれ、あちこちで趣向をこらしたクルージングが行なわれたものである。そのなかで瀬戸内海を舞台に催された香川マリンと広島店のクルージング、東京新橋店の神津島クルージングを紹介しよう。

'72 CRUISING ALBUM

'72全国クルージングアルバム

東京 TOKYO

高波と炎天下の 砂浜パーティー

●東京新橋店・神津島クルージング●

東京支店、新橋店主催の神津島クルージングは8月19日から21日の3日間行なわれた。これに参加したのはSTR20SCRなど10艇、総勢40名にのぼるにぎやかなものであった。19日朝8時シーボニアヨットクラブを出港したがこの日の伊豆沖は波が高く、各艇とも追し寄せる高波と格闘しながらのクルージングとなった。しかし参加者はほとんどベテランばかりで、むしろ大波があつた方が面白いという強者揃い。

途中大島の波浮の港に入港して休憩ののち再び神津島へ一直線のコースをとつた。現地には午後3時に到着、そのまま旅館や民宿に分れて荒波と闘つた疲れをいやした。

明けて翌朝はカラリと晴れあがつたビュートイフルな島の休日となった。午前中は各自思い思いに水泳やランナバウトを楽しみそのあとは待望の昼食である。

真夏の太陽がさんさんとふりそそぐ砂浜に全員集合、釣の獲物や漁師に分けてもらったサザエやイカ、持参したジャガイモやトウモロコシ、ハムなどのゴツタ差しのパーベキューパーティーとなった。新鮮な魚貝のオイシサは格別でたくさん用意された串差しがまたたくまにそれぞれの胃袋に直行、よき夏の思い出となったクルージングであった。



広島 HIROSHIMA

ロマンチックな 星空の下で パーベキュー



夕食のあとのキャンプファイヤーでムードは最高潮。



そうそう、その調子で安全運転といこう。

四国 SHIKOKU

快晴から ドシャブリに 一転した二日間

●香川マリン・瀬戸内海生口島クルージング●
香川マリンが主催して四国支店などの協力で行なわれた瀬戸内海生口島クルージングは参加艇も17艇を数え、総勢55名というかなりの規模のものであった。

出発当日の8月19日はすばらしい好天にめぐまれ、午後1時に屋島マリーナを出発して絶好のコンディションの瀬戸内海をひた走り、文字通りのビイバクルージングであった。途中エンジントラブルをおこした艇もあって休憩したりしたが生口島までの100kmを2時間あまりで走りきり全艇あいついで瀬戸田港に入港した。

島では名刹として名高い耕三寺を参拝してしばらくくつろいだあと向島までひき返し、マリーナ尾道にイカリをおろした。

翌20日は前日とは一転して朝から暗雲がたれこめ、出港時には小雨からついに本降りとなり、大波にゆられてのドシャブリクルージングということになった。

同行した映画撮影班もカメラを廻すことをあきらめるといふ一幕もあって、全員早々に高松へひきあげたのだった。

▲翌朝は向島の尾道マリーナから再スタート。

情緒的な島と対照的なきらびやかな耕三寺。





ウンウマイ！ 太陽がカンカン照りつける砂浜で飲むビールの味はまた格別。



美しい神津島の浜辺で思い思いに日光浴を楽しむ。



● 広島店・瀬戸内海大島クルージング ●

広島店主催の瀬戸内海大島クルージングは8月13、14日の両日行なわれたが、オーナーの仕事の都合で二班に分かれ、宿泊組と日帰り組との別行動クルージングとなった。

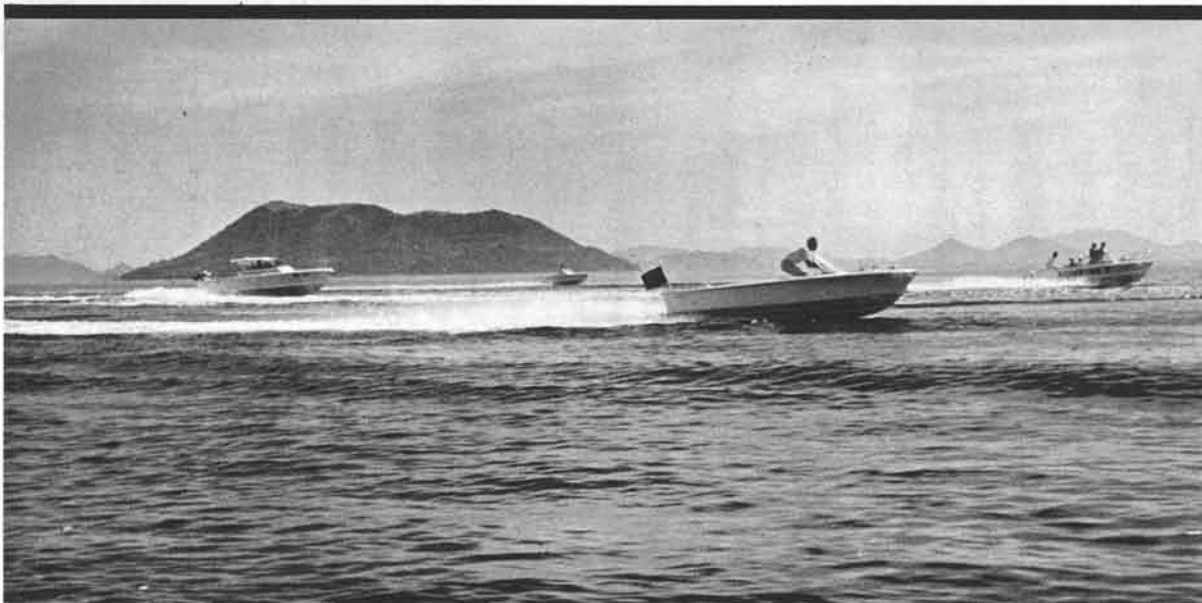
先発隊は、STR16の1名など、4艇15名で12日のお昼過ぎに仁保マリナーを出港、前日のシケの余波を受けてかなりの高波の中を苦戦しながら大島に向った。

広島—大島間80kmを3時間余りを費やしてようやく大島小積港に到着、近くの県教職員共済組合の海の家に落ちついた。

夜になると空には星がキラキラと輝き、全員が広場に出てロマンチックな星空の下でのバーベキューパーティーとなった。その後は海の家でゴザの上に雑魚寝スタイルで合宿、翌朝は地元漁師に借りた地引網を引き小鯛、タコ、ハゲ、フグなどの収穫に喝采した。

一方後続のSTR15、STR17SP、STR20SPの三艇は13日の朝に仁保を出発、前日とは違って変ってないだ海を大島まで一直線、一時間半程で小積に到着、先発隊と合流した。

午後はスイミングや釣を楽しむ、3時には広島に向け帰路についた。



ないだ瀬戸内海を思いっきり走りまぐる。まさしくビィバ クルージングといったところ。



EUROPE MARINE REPORT



CANNE デラックスなクルーザーがずらりと並んで目を奪う。

“走る別荘から 軽ランナーまで”

中広いヨーロッパのボーディングライフ

長い冬を過ごすヨーロッパにおいては、われわれ日本人の感覚からすると少し異常と思えるぐらいに太陽を有難いものとする習慣がある。フレッシュエアの夏の間は、できるだけ太陽を吸収しようと、若者は街を裸で歩き、公園の芝生で寝そべっている。

したがってボートに対する考え方も日本とはかなり違っている。彼等にとつてボートは、あくまでも日光浴の手段として存在する。彼等はけっしてボートを飛ばすことほしくない。とるところとじれったいぐらいのスロースピードで海や川を往来しているのだ。

ジッと乗っているだけのボーディング

筆者がオランダに着いたのは、夏とはいえずし肌寒さを覚える曇天の日曜日だった。アムステルダムから車で二〇分ほど行つた郊外の一画に中ぐらいのマリーナがあった。こんな日に船を出すような人はいないだろうと思つてたが、確かにランナバウトをして遊んでいる人は少なかった。が、ただ係留されているだけかと思えたボートをよく見ると人が動いている。なんと、そこにもここにもキャビンの中やデッキで裸の人たちがただボートに乗っているだけという状態で休日を通してのだった。

シンプルな造作の大衆向ボート

ヨーロッパのボートは概しておうように出て来ている。木製ありFRP製ありあるいはこれらの折衷品だが、どちらかというとも簡単な造りのものが多い。デザインなども実にあっさりしていて、ウインドシールドにアルミサッシを使ったものは数えるほどしかない。各部分を吟味するよりそれだけ船体を大きくした方がよいという考え方だ。それらのほとんどがクルーザータイプだが、その割には小馬力の船外機が多い。20フィートクラスのボートに20馬力前後のエンジンで満足しているヤマハの船外機も15馬力や25馬力がこのクラスのボートに装着してあるのがよく見かけられた。

のんびりムードの遊覧ボーディング

筆者はロンドンからテムズ川をさかのぼって、それらのボートがどういう使われ方をしているかを見学することにした。50kmも上流になるとあたりはいかにもイギリスらしい民家が立ち並んでいる。いずれも庭先がマリナーになつていて、ボートの発着、係留を行なうわけである。アムステルダムの郊外にもこれと同じように、庭先から運河を通して海へ出れるという条件の恵まれた家もか

うけられた。

さて金曜日の夕方、主人が勤めから帰ると家族を連れだつてマイボートでバカンスに出かけるのだが、その走り方も実におおらかなものである。テムズ川もこのあたりにくると川巾も50mと狭くなるが、時速10kmから20kmのスロースピードで、まさに川の流れに身をゆだねるように走っている。腹が空いたら岸辺のレストランに着けてスコッチに軽い食事でもとり、また川を下るといふわけである。

普及率NO.1のノルウェー

ノルウェーは国のまわりが入りくんだフィヨルドから成っているという条件もあって、モーターボートが最も普及したいわば国民皆ボートの国といえる。空からながめるといたるところにマリーナがあり、色とりどりのボート、ヨットがまわりの緑や青に映えて実に美しい。

ここもボートの造りはあっさりしているが、スポーツタイプもかなり見うけられる。インボード、アウトボードさまざまだが、外海に面しているのでスピードを楽しむ若者も結構多くなる。若者といつてもなかには十二、三才からの少年、少女達がセッティングして海に飛びだしてゆくのだ。小型のロウボートタイプのものも多い。ヤマハ船外機が最も多く見られたのもこの国である。

絢爛豪華な走る別荘の賞禄くらべ

地中海に面した南フランスのキャンヌは、さすがにバカンスのメッカだけあって、超デラックスなクルーザーヨットからスポーツボートまで凝りに凝つた船艇が数多く見うけられる。一艇四、五千万はすると思われる豪華船がずらりと並んださまはまさに壮観の一語につきるが、よくもこれだけの金持がいるものだと思心させられる。

これらの船は、お客を招いて洋上会談に用いられたり、日光浴やスイミングのベースとして使われるいわば洋上の別荘といえる。そ



NORWAY 圧倒的なボートの数に驚かされるオスロのマリーナ。



CANNE 島の入江には日光浴を楽しむためにクルーザーが集まってくる。



GERMANY 西ドイツ、店内に水をひいてポートを浮かべている。



CANNE 地中海ではクルーザーがゴムポートをつるして走っている。



ENGLAND 庭先がマリーナになっているテムズ河畔の民家。



HOLLAND 桟橋に屋根がかかった珍しいオランダのマリーナ。



NORWAY 少年、少女が気軽にボーティングを楽しんでいる。



好評なヤマハ船外機群

してこれらのクルーザーはいつもゴムポートや小型ポートをつるし、中型の船外機を一、二機予備として積んで走っているが、これらは緊急時用もしくは遊びのサブポートとして使っている。

筆者は地中海めぐりの遊覧船に乗って、それらの船が島かけや静かな湾内にたむろしているのを見ることができたが、ほとんどが中年の金持で、日光浴をしたり、キャビンで軽食やワインを楽しんでいるというまことにゼいたくなくボーティングライフであった。

ヨーロッパでのヤマハ船外機の評判であるが、性能的には種々のテストにも問題がなく、どこでも好評をもって迎えられていた。補修パーツの品不足が苦情といえはばいえる程度で、とにかく品物をもっとたくさんまわしてほしいという要望が強いようであった。ポートも現在のヤマハ製品を持ってゆけば充分対応できると思われるが、運送コストの問題がやはりネックになるため、ノルウェーにおいてはヤマハモーターN.V.で現地生産によるランパウト艇の開発が進行中であった。

質より量のマリーナ

マリーナの造りはどこでもシンプルである。ほとんどが係留方式で、一部陸置がある程度で艇庫まで完備しているのはめったにない。オランダでは係留艇庫ともいうべき珍しいものも一部に見られた。しかしさすがにマリーナの数は多い。ノルウェーや南フランスでは数キロおきぐらにある。大小規模はさまざまだが、大きいものになると千艇近いポート、ヨットがつかないものになると千艇近いポート、ヨットがつかないものになると千艇近いポート。

先にも記したが、イギリスのテムズ河畔やオランダの運河ぞい、ノルウェーの別荘などは庭先がマリーナになっていて、マイボートで海まで行けるという恵まれた条件にあった。これなどはまさにボーティングライフの理想を示すものだと思う。



veteran owner

ベテラン・ボートマンの豊かな経験を通じて、初心者に貴重な乗船のコツや、楽しく安全なボートイングのアドバイスをしていただくオーナー談義。第3回は広島市で中国樹脂工業を営み、社員の情操生活にモーターボートを最大限に利用されている田坂清司さんにお話ししました。

私がモーターボートに乗るようになったのは今から7、8年前、スキングや水泳や水上スキーにあこがれて自分もやってみたくて思うようになってからです。しかし、はじめの頃はそんなにカッコよく走ったりもぐったりということではなく、船外機付のボートに家族を乗せてポンポンと走るだけ。暑さもしのげるというので結構満足していました。それからモグリ仲間と知り合うようになったのです。

その頃はモグリ仲間が10人位いて、日曜になるとそれぞれのボートでなんとなく集まり同じあたりにモグってはあとで話に花を咲かせていました。あの頃がいちばんいい時代だったような気がしますね。そんな仲間ともマリナーや遊びの変化にともなうて散り散りになってしまいました。

それからはスピード時代になり、ランナバウト艇でびゅんびゅん飛ばすことに専念する

ベテランオーナー・ボート談義

3

広島市高須・田坂 清司さん

休日の海は

生活のサイクルに

ゆとりと張りをもたらす



ようになりました。私はヤマハの16フィートにマークルザーの100馬力付で乗っていましたが、これは非常によく走るボートだと思いました。ランナバウトのダイゴ味を大いに満足させてくれたし、今でもいちばん好きだったボートはと聞かれればこの16がすぐ頭にうかんできますよ。

スピード熱がさめると今度は大型クルーザーに乗りかえて本格的なクルージングや釣を楽しむようになりました。それからずっとこんな調子でボートに乗り海に出ることを続けているわけです。

私が海に出るといっては理屈ではなく、ただ単に海が好きだからでしょうね。山好きの人がよく言うように山がそこにあるから登るのだという具合で、われわれの目の前に広がる海が無性に好きだから飛び出してゆくのだということでしょうか。

スピードとテクニクの使い分け

私はこれまで11フィートのハイフレックスから現在の20SPまで八艇乗ってきましたが、結局、私としてはモーターボートはスピードを徹底的に楽しむか、大きなクルーザーで外洋の航海を満喫するかのどちらかだと思います。

20SPはそのスマートさに惹かれましたね。



veteran owner

テクニクはYAMAHA-22、
スピードはSTR-20SPでと
“両手に花”のゴキゲンな田坂さん。

今までのデザインから見ると、この20SPは全く見違えるようなアカ抜けたデザインだと思えました。しかも船体がガンコに出来ています。まさしくスポーツランナバウトには最高のボートでしょう。私はこれを専ら走るための船として求めたのです。

一方近頃興味のできたセーリングのテクニクを覚えるためにY22と一緒に買いました。モーターの力でぶんぶん飛ばす20SPとあくまで風と技術をたのみとするY22は全く対照的ですが、目下はセーリングのシートさばきの面白さにとりつかれているといった状態です。せんだつての宮島ヨットレースにヤマハの若林さんとクルーを組んで優勝したことがますますセーリングへの傾斜に拍車をかけられることになりました。

快適な無人島の別荘生活

現在モーターボートは専ら姫小島の往復に使っています。ここは広島から30km程の瀬戸内海の無人島で、そこには隣島の阿多田本島の持主から借りている別荘があるんです。八畳二間ですが、電気もひいてあるしプロパンガスを持ってゆけば台所も完備しているので住宅としても充分使えるものです。

土曜の夕方か日曜の朝に食物や飲物を積込み、社員や家族を乗せて島へひとつ走り回ります。毎日仕事に追われてくたびれ通しですが、この土、日の島暮しはそんな私を生返らせてくれます。

私は酒が好きですが、ことに街から離れた島のムードが酒を一層うまいものにします。仲間と一諸だとなおさらのことですね。和洋酒どちらでもいけますが、ふだんは家でたしなむ程度です。外で飲んでいたらボートなんか買えませぬよ。

若い人はよく食べますね。料理がまたすごく上手なんです。持っていた肉などはまたたく間にたいらげてしまします。どんなもの

でも環境がよければいつそううまくなるもんです。私は肉も魚も駄目な方ですが、この島では獲れた魚をほんとうに美味しいと思って食べます。

社員とも仕事を離れたこのような場所でのコミュニケーションが人間的なつながりを一層深いものにすると思えますね。

急変する海の天気のおそさ

今まで七年間ボートに乗ってきてほとんど事故をおこしたことはありませんが、四年前に宮島へボートキャンプに行った帰りに台風に遭い、転覆したことがあります。出港する時は晴れていたのです。台風予報は出ていたようでしたが、そんな気はみじんも感じられない上天気でした。しかし帰る頃になって予報どおりの猛風が来襲してもうにっちもさっちもゆかなくなり、ボートもろとも転覆という最悪の事態になってしまったのです。この時になつてはじめて海の恐さを身にしみて感じましたね。やはり天気予報は尊重しなければと思えました。それ以来、ボートイングの日の気象通報は神経質過ぎるぐらいに注意しています。

自分たちだけでなんとかできるだろうと安易に考えて船出すると後でみんなに迷惑をかけることになりかねません。常に他人の身になって考え、とくに小さな舟はお天気にはよほど注意してかからないといけませんね。

エンジントラブルもこわいですね。私も一度トラブルを起して漂流したことがあります。その後18CRにはP95をいつも積んで走り回りました。結局は使いませんが積んでいるということだけで安心してクルージングができるのです。一にも二にも安全第一がボートイングの基本であり全てであると思えますね。

ライト トロリング ルアー

● 米地南嶺 ●
ジャパンキャスティングクラブ



ラバラ ディブシー シンキングタイプ



レーベル (メタルビル)

先号までは初歩的なライトトロリングの解説をしたが、これから晩秋までが、トロリングのシーズンだから、用具の解説と釣り方を併行して解説してみよう。

昔から「人馬一体」という言葉がある、トロリングの楽しさを充分に味わうためにはボートを愛しボートと一体になって巨魚にいかむようにしてほしい。

また、釣りは魚を取る作業ではなく、釣りあげるまでの過程を楽しむのがスポーツフィッシングであることを理解して頂きたい。

海へ進出しよう

湖沼のトロリングは環境の美しさと、釣れる魚がなんとなくエキゾチックな魅力がある。海のトロリングは、スピード、スリル、サスペンスに富んだドラマの主人公になるのが魅力といえる。

数年前からオーナーの間にトロリング熱が高まっているが、ほとんどが職漁者の手法をまねた引き釣りである。何でもいから釣れさえすれば、といった考え方ならそれでもいいが、サオヤリールの性能を生かしたトロリングは同じ釣りでも内容がグント違う、折角性能のよいボートを使うのだから職漁者のやり方をまねないで、スポーツテイな釣り方をやってほしい。

迫力あるシイラ釣り

カツオ、ソウダカツオ、イナダ、サバ、シイラ ETC...。おなじみのゲームフィッシュである。ところが、カツオやイナダにまじって釣れるシイラは40センチから60センチくらいである。釣り場と釣り方によつては、1・5センチから2メートルのシイラが釣れることをご存知ない人たちのために、大型シイラに焦点をしばって説明をしよう。

シイラの1・5センチ級は8〜9センチもあり、1・8センチなら10センチを越える。ハリにかかると激し

いジャンプを繰り返す迫力は物凄い。想像以上の引きの強さに圧倒されて顔色が変わるほどだ。

岸から5〜10メートル沖へ出ると、おなじみのトリヤマがある。ボートファンをお祭り気分にしてくれる打上げ花火といえる。イナダやカツオに追いあげられたイワシの群れが海面近くを逃げまどっている、それに襲いかかる鳥が急降下を繰り返す。無論、釣り人にとつてもトリヤマの立つた場所は見逃さない。だが、私たちはあえてそれを見逃してさらに沖へ向う。一般の職漁船や釣り船の多い所から10〜20メートルくらい沖の潮目が大型シイラの回遊場所だ。

濃緑色と濃紺色との潮境はよく分かる。流木やゴミが延々と列をなして流れている。その下に大型シイラの好餌がいて、一尾ずつ順序よく襲うのがシイラだ。

したがってシイラをねらうには潮目に沿って2・5〜3・5ノットくらいのスピードでルアー（ギジ）を引くことになる。漂流物から80センチくらいルアーが離れていてもシイラは飛びついてくれる。

ハリがかりしたシイラはジャンプする、頭と胴体をふるわしたシイラ独特のフアイトを繰り返す。この場合リールリングを続けたいとバレてしまう。

1・5センチ級で20分、1・8センチ級なら25分くらい...取り込むまでの時間である。初心のうち魚をかけたなら、しゃにむに引き寄せようとするから切られる。

9月いっぱいから10月10日頃まではシイラのタナ（回遊層）は高く、1メートルから6メートルくらいが普通でタナが20メートルもあるような潮況ならたとえシイラの近くをルアーが通過しても積極的に追わない。

シイラに限らず回遊性の魚が釣れる日なみは荒れた直後が最高である。慣れた人たちは台風が通過した後、まだ雨が残っているなかを基地へ急ぐ、夜明けに出られる準備をして仮睡する。

台風が通過した翌日は空は磨いたように澄

んですがすがしい、多少うねりは残って、吹きかえしの風がある。したがって14フィート以下のボートでは無理だ。

釣り用品と使い方

サオ 160ポンドテストのトロリングロッドなら申し分ないが強目のボートロッド（2センチ級）1本。

リール ナイロン15号を300センチ巻けるだけのキャパシティーのあるスタードラッグ（回転軸）リール1個、ドラッグが正確に利くものを選ぶ。

ライン、ナイロントゲス（モノフィラメント）12号200メートル。
ルアー ミノタイプ（魚の形をしたもの）のタイプシー、シンキングタイプの15〜20センチを各3個、青を主にして赤も用意する。

例えばラバラ、レーベルなど釣具店に輸入ルアーを売っている。国産ルアーには大型のミノタイプはない。
ほかにランデングネット（大型）スイベルを10個、シンカー（オモリ）10〜12号を各3個。

ハリス ハリスは10号1・5センチをミチイトにスイベルを使って結びつける。磯釣り用ワイヤーを使ってもよい。

リールのドラッグは力いっぱい引けば回わる程度に調整しておかないと、シイラがかかった時、瞬間加重で切れるおそれがある。リールを巻いて魚を引きよせる途中で魚が強い力を出した時少し逆転する程度にしておかないと切られることがある。

サオの扱いかたではボンピングのテクニクを知らない人と大物は釣れない、ラインをしっかりと押えて、力いっぱい後方へサオを倒して、サオ先を前方に倒しながらリールを巻くようにする。

魚がボートの近くまで寄ってきて最後の抵抗を試みる、その力が強いときはもう一度走らせて弱ってからネットですくいあげる、その場合頭が下になるようにする。



鳥羽は知多マリーナから南西におよそ30km、中京地区のクルージングコースとしては最もポピュラーなコースです。



クルージングの楽しみは、獲れたての海の幸。そのオイシサはまさに今日のクライマックス。



コバルトの海に白いウォーターカーテンを描いて滑走するそう快な水上スキー。



スポーツボートの入門艇としておなじみのTR1-12DX。今日は長丁場の伊勢湾横断に挑戦です。胸のゼッケンが晴れがましい。



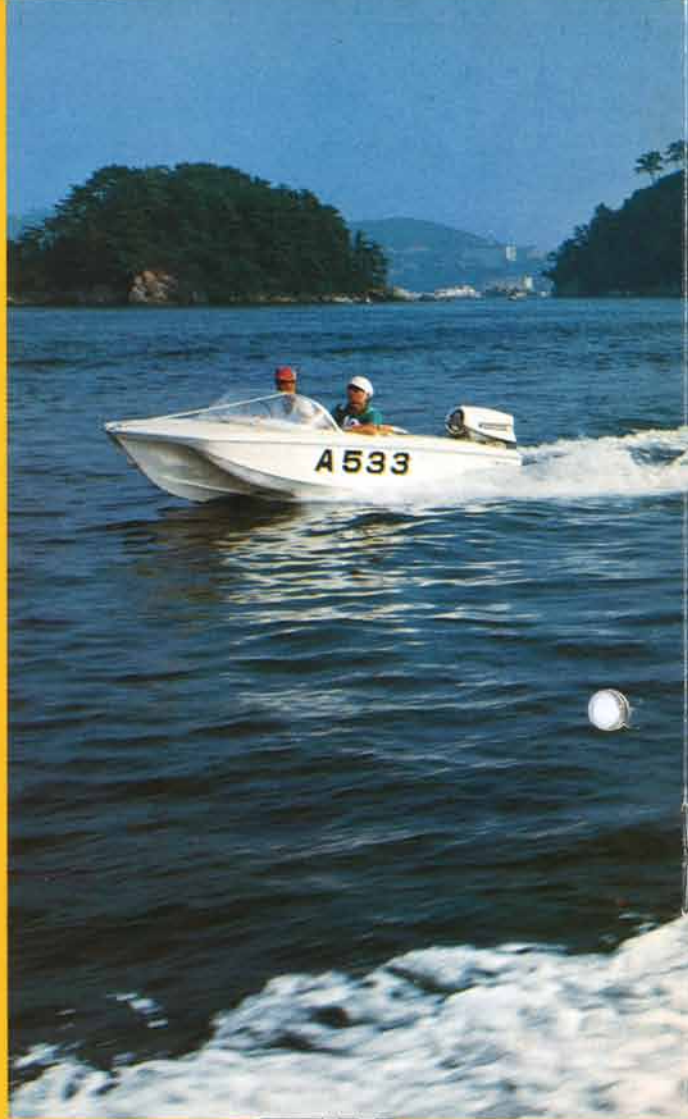
一家全員で参加して楽しさいっぱいのSTR-15。パパも張りきってハンドルを握ります。



まっ白のパンタロンのお嬢さん。あちこちのボートから同乗の誘いがかかるモテモテぶり。



鳥羽国際ホテルのデラックスなプールで優雅にスイミングを楽しむ。



鳥羽マリーナは伊勢志摩国立公園の一角、公害のない緑の楽園を背にしたすばらしい環境にあります。



ヤマハボートオーナーズクラブ名古屋の結成を記念して、8月6日の日曜日、木曾川マリーナと知多マリーナから鳥羽マリーナを結ぶ「鳥羽クルージング大会」がにぎやかに催されました。

快晴ベタナギの絶好のクルージング日和に恵まれたこの日の参加艇は合わせて20艇。それも12フィートから17フィートまでの中、小型が中心となった、いわばミニミニクルージングです。

いつもは大型艇のベースについつい遅れ勝ちで肩身の狭い思いをしたり、はじめから速慮して不参加をきめこんでいたミニボートが、どとくりだしてたいへんなごやかなクルージングになりました。

夏休みの日曜日とあって、オーナーのお父さんやお兄さんたちにもまじって、子供たちやBGのお姉さん、お母さんも一緒に参加するという、日頃裏方にまわっていた人たちみんなが大手を振って楽しむファミリークルージングといったところです。

なかには今日はじめてクルージングに参加するといったミニボートもありましたが、みんな期待に胸をふくらませて朝早くからそれぞれの出発地点に集合したものです。

この日の伊勢湾は終日おだやかな天候で、不慣れた人たちにも充分クルージングのできる最良のコンディションです。

今日一日は各々自分たちのペースでのびのびと走り、鳥羽湾上の海上レストランで獲れたての海の幸のパーベキューに舌鼓を打ち、国際ホテルのプールでスイミングするというまさにデラックスずくめの海のバカンスを心ゆくまで味わったすばらしいサマーホリデーでした。

地中海の休日

地中海は淡いコバルトブルーの海面に快よい潮風がわたり、点在する小島にはおいしい果物がたわわに実るヨーロッパの楽園です。いちばん気候のよい夏の間は、ヨーロッパ各地から保養に訪れる人々にぎわいます。これらの旅行者には大型の観光船が便利で、手軽に島巡りを楽しむことができます。



ヨーロッパ各地からバカンスにやってきた人たちでいっぱいの島めぐり観光船。

南フランスのカンヌは、地中海沿岸の保養地のメッカで、世界の金持たちが集まる処として知られています。彼等は日中には豪華なクルーザーで地中海を遊航し、夜はカジノやナイトクラブで大盤振舞という優雅な生活ぶりを見せています。

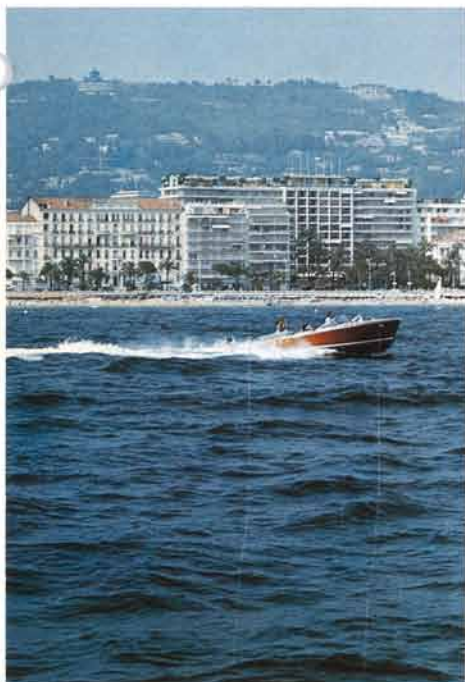
ある日の地中海の表情です。



カンヌのマリーナで見たデラックスボートの船内。



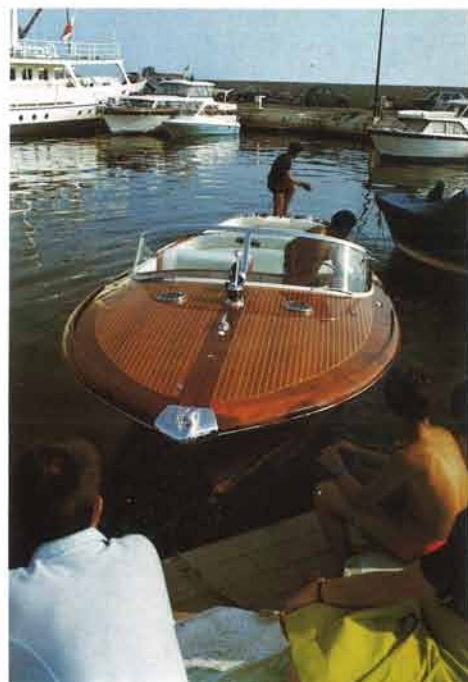
小島の入江で日光浴を楽しむオーナー。



カンヌ沖を豪快にランナバウトする大型スポーツボート。



コバルトブルーの海に強烈なコントラストを感じさせる赤いセールのヨット。



木目が美しいガッツなスポーツボート。

高橋 森さんと洞口さんは、同じ名取市の海で育った幼なじみで何でもツーカーの仲でいらっしやいます。ヤマハボートを一緒に買ったのは44年7月のSTR15からでこれは前任者ですが、私はSTR16INとSTR17SCRにおつきあい願っています。ところでボートを買われた動機は何だったんですか？

森 そうだな、ヤマハの人から試乗会に誘われてヨ、乗ってみてこれはいいもんだチユウわけでその場で契約したんだ。それまではボートになんか何の関心もなかったんだ。

洞口 はじめの頃は波に乗るのが面白くて、よく仕事さぼっては乗ってたもんです。今は仕事の関係で別々に乗ることが多いけど、あの頃はほとんど一緒でした。

高橋 それからでしたね、転任してきた私が松島湾でお二人に会ったのは。

森 高橋さんもうまかったね、顔合わせるために16フィートを勧めて……

洞口 そうこうしているうちに15フィートに付いたジョンソンの60馬力エンジンを盗まれたんだ。

高橋 どこに置いといたんですか。

森 近くの、川の橋げたにつないでおいただ。だから、誰れかが前からねらってたんだな、あん時はあきらめられねえで会社ひけてからあちこち聞いてまわったつナ。

洞口 犯人の奴、リモコンボックス置いてったから、後で買いくるに違いないっていうわけでヤナセに手配しておいたんだがとうとう出てこなかったなア。

高橋 それでインボードだったら盗まれないからということで16INにしたんでしたね。

森 それを今度は俺が無茶してエンジンを水びたしにしたんだナ、閉上（ひらあがり）の河口んとこで……。あそこは引潮と沖風でいつも波が荒いんだが、急にスピード落としたんヨ、そのとたんグッチャ、波をかぶったのは。

洞口 私はその点安全運転の方かナ、それでも浅瀬に乗りあげたり、岩にぶついたりし

お落したの
お落したの
お落したの

仙台支店 ● 高橋 和男



真剣な表情で御神酒をふるう洞口さん。

仲よしコンビの マイボート奮戦記

会社員 ● 森 敏征さん(26才) 共に宮城県名取市
運送業 ● 洞口 稔さん(25才)



楽しそうに語り合う左から洞口さん、森さんと高橋社員。

てプロペラ五、六回取りかえたもんな。

森 おおだ、しかし俺はムチャなんだナ、一昨年の夏も大騒ぎ起したつけ、あんまり金華山がスパツときれいに見えたもんでこれなら二時間もあれば帰ってこれると思っただけで出たんだワ、夕方の六時頃だったナ、そして帰りに波が荒くてヨ、なかなか進まねえんだ、十時までに帰らねかつたら届けてくれる家の方にいっておいただが、九時半に港に着いたらもう皆んな待機しててな、ひっこみがつかなくなつて漁協やら警察やらあちこちあやまりに回つてヨ、酒一斗は使つたナ。

高橋 17SCRはちゃんと進水式もやられましたね。

森 そうそう、今までロクなことなかったから一応やるべきことはやつといた方がいいんでねえかつて、塩釜神社でお札ももらつてきたわけサ。

洞口 それにボートもちゃんとしたマリナーに置くことにしたんだよネ、その方が結局は安心だということもわかつたから。

高橋 どうです、こんどトロリングやりませんか！ ビックリするような大きなのが釣れて面白いですよ。

森 ホウ、こんどやつか、ほかにもいろいろボートの遊びごとを覚えねばナ。

洞口 今まではビュンビュン飛ばすだけで結構面白かつたけどネ、こないだ頼まれて水上スキーを引いたんだけどあれもいいネ、自分でも滑ってみたくなつたヨ。

高橋 スキングイビングなど他にもいっぱいボート遊びがあります。それらでこれからもうんとボートを楽しんでもらいたいですね、今日はどうも有難うございました。

ぎっくばらんで東北人らしい人のよさを感じさせる森さん。几帳面で紳士の洞口さん。対照的なお二人ですが、東北の若いボートオーナーのパイオニア的存在として、常にマリナーの先頭を突走ることでしょう。



STR-28

オフショアクラスで総合優勝

熱海オーシャンカップを制覇!



日本最大のパワーボートレースとして名高い「熱海オーシャンカップ」は今年で第五回を迎え、7月17日熱海湾に一八八艇、二八七名の選手が参加して熱戦をくりひろげた。

注目のオフショアクラスには、マズグラ、マグナム、コンコード、サイドワインダーなど海外の著名なレース艇が顔を揃えた中に、ヤマハSTR-28が三隻出場して話題を集めた。このうちの一隻ヨリトモレーシング所属の747号艇が他艇を全く寄せつけない独走を続け見事総合優勝をとり、また淀川モーターボート所属の404号艇も三位に入り、STR-28が圧倒的な強さで席巻した今年のオーシャンカップであった。

またストックCクラスではヤマハTRI-12DXがヤマハ船外機P-450付で出場、快走して、一、二位を占めた。

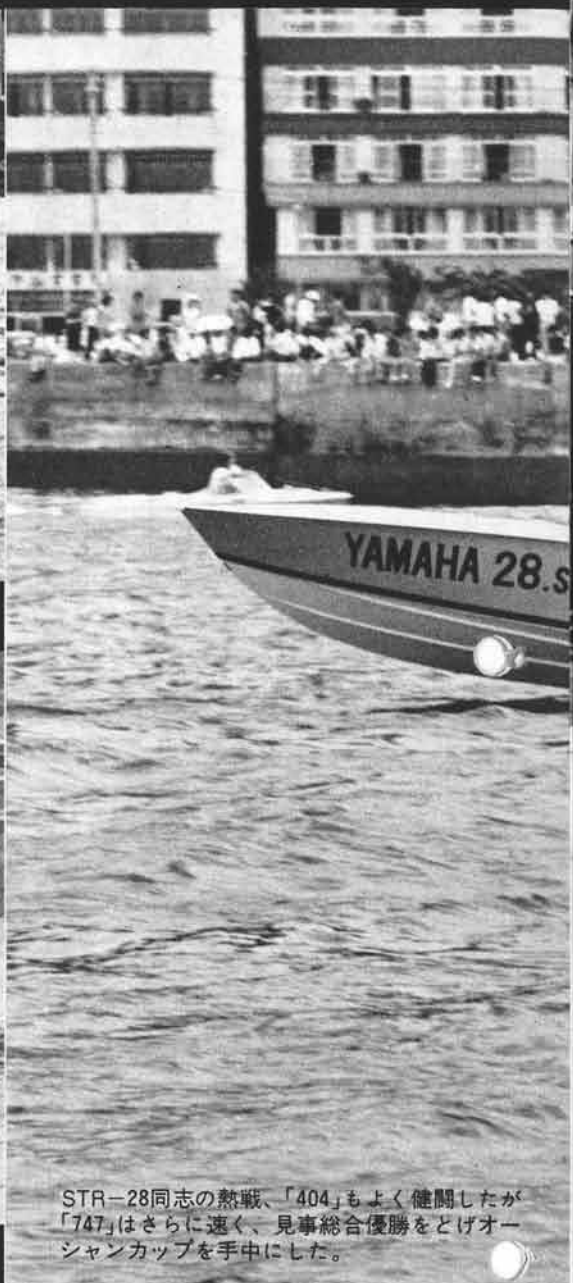
オフショアクラスは熱海から真東に4kmの海上のマークをまわる一周8kmのAコースを20周する160kmの長距離で行なわれたが、747号艇はホルマンムーディ350馬力の二基がけ一五〇二ccのビッグパワーにものをいわせ佐野、田島、牧野のドライバーのチームワークもよく、平均時速89kmという猛スピードで走りきり堂々と優勝を飾ったものである。



▲7周目をクリアする「747」、4位を走る「560」をすでに1周ラップしている。



▲STR-28に船外機4基掛けという難かしいセッティングに挑戦した「404」はプロペラの損傷にもめげず総合3位に入賞した。



STR-28同志の熱戦、「404」もよく健闘したが「747」はさらに速く、見事総合優勝をどげオーシャンカップを手中にした。

大役を果たし歓呼に応えるヨリモトレーシングチームの佐野、田島、牧野の各選手。



▲ストックCクラスで1位のTRI-12DX、P-450のコンビ。ドライバーはヤマハ東京の加藤健雄選手。

このレースでは3周目をまわったあたりから747号艇がトップに立ち、次いで404号艇が追いあげるといふ形で、中盤迄を經過。トップを競うこの二艇は他艇をほとんど二周ラップするという豪快なレース運びを見せたが、14周目に入るやトップを走っていた747号艇が突然ビットイン、観客の気をもませた。が、これはオイル漏れの故障を直しオイル補給を行なったもので二位を一周ラップしての予定の行動であった。

いっぽうこれ好機に、404号艇は猛然と追いあげ一周遅れをとり戻し、さらに一位に肉迫したがここで747号艇のエンジンが再び始動してダッシュをはじめた。ところがこゝろは404号艇が14周目に入ると、四基のうちの一基のプロペラが流木にあたりとばされるという事故が起きてスピードダウン、このすきに三位に走っていたスマグララー439号艇が追い抜いて14周目を通過、レースは後半に入った。747号艇はその後も安定した走りを見せ439号艇の追従をゆるさず独走結局このままの順位でレースを終了した。

404号艇も故障にめげずよく健闘してZ級では一位、総合三位に入賞した。

よく風いで、水面もカガミのようにおだやかな日には、小さなボートで海へでている怖さをつい忘れがちなのですが、……風が吹き、波が立ちはじめると、つい今しがたまでのおだやかな海も、一変して怖ろしいものに変ってきます。

荒れる海には、ときには何万トンもある大きな船を無力にしようような兇暴な力のあることを忘れてはいけません。

海の恐しさは決してそれだけではありません。ボートに乗っていったん岸を離れたからは、また岸に帰りつくまでは、なにからなまでにあなたが自分一人でしなければならぬのです。

海上でミチに迷っても、エンジンが壊れても、燃料がきれても……、海の上には交番や修理屋さんやガソリン・スタンドのあるわけがありません。

また、いくら海が広いからといっても、ハイスピードでボートを慢然と走らせても安全なほどには決して広くありません。時にはヨソの船や流木や暗礁、浅瀬などにボートをぶつけたりする事故もおこります。広い海にも危険はいっぱいあるのです。

いつも安全なボートリングを心がけるあなたは、海に甘えず、海に馴れず、危険に接するような慎重さで、いつも海とつきあってください。これが気まぐれな海と小さなボートとの一番安全で長もちのするつきあいかたなのです。

1 ボートと海に 早くなれよう

モーターボートの恐しさは、ボートをただ走らせるだけなら、すぐできるほどの容易さにもあります。ボートを買ったその日から、

安全な ボートリングのための 10章



ボートのこと、海のことをなにも知らずにボートにでかけるのはきわめて危険なことです。

ロープの結びかた、ボートの係留や錨泊の正しいやりかた、信号のうちかたとりかた、救急法等……一人前のボートマンとして必要なボートと海の知識と技術とをまず磨くことが、安全なボートテイングへの第一歩なのです。

2 出港前の点検は十分に

みんな集まった、さあボートをだそう……これでは事故のもとです。船体は、機装品はエンジンは、燃料や積込品は、乗組員の健康状態や定員は、ボートの前後左右のバランスや吃水は、天候は……、出港前には点検を徹底的にやっておくべき。

3 ボートの上では救命胴衣を着よう

ボートテイングに救命胴衣なんて……決して大げさではありません。モーターボートのスピードと軽快な運動性とをフルにエンジョイするための安全で最適の装備です。救命浮環や消火器は使用に便利な定位置に、安全備品の点検、確認は、あなたの生命の問題なのです。

4 行動予定は必ず連絡

自分の遊び……ボートテイングでは決して他人に迷惑をかけてはいけません。出港前にはボートテイングの計画・予定などを港の誰かに必ず連絡。途中で計画を変更したり、帰港した時に、まずあなたがやることは、その人に無事帰着したことを連絡することなのです。

5 ボートテイングは陸の近くでグループで

海上ではいつも、広い海とあまりにも小さいあなたのボートのことを考えながら行動しましょう。できれば単独行は止めてください。なにかトラブルが起った時など、仲間のボートが傍にいてだけで、あなたはどんなに心強いことでしょう。夜間航行もできるだけ避けましょう。月夜など視界の明るい夜でもスロウ・ダウンして走ってください。

6 安全は一にも見張り二に見張り

ボートテイングでは鋭い見張りだけがあなたのボートを危険から守ります。他船の行動、刻々の自艇の位置、空模様、海の状態、流木やゴミ等の漂流物、水の色や波立ちを見ることで浅瀬や暗礁等の存在を知ること。計器の点検、エンジンの異常音……、目も耳も鼻も、

五感をフルに發揮して見張りを励行してください。

7 交通法規は厳格に守ろう

水上では右側通行が原則、横切り船は右側優先、追越しは慎重に、自分より弱い船にはミチを譲ろう……、避航動作は早目にハッキリと、港内徐行、出港船優先……。

8 ボートは見せものではない乗るものだ

岸の近くなどで人目を意識したボートテイングなんてモンダイ外。海水浴場への乗入れは犯罪行為、真のボートマンは自艇の引き波にも責任をもたなくては……、ボートの操縦は派手よりも地味に見えても安全が第一、離着岸は後ろにも目をもとう。

9 ボート遊びで海の業務をじゃまさない

海はあなただけのものではないのだ。あなたの楽しみだけを追いかけて、他人の迷惑を考えないボートテイング・アニマルでは困る。漁網や筏に気をつける。高速で釣り舟や漁船には接近しない。プレジューア・ボートは進んで業務船にミチを譲る心がけをもとう。

10 青いきれいな海を守ろう

海を大きなゴミためと考えてはいけません。廃油のたれ流し、海にゴミを捨てるのは今すぐやめよう。あなたのボートテイングを楽しむ海が、いつまでも青く、きれいな海であるように……。



皇太子ご一家浜名湖へ

皇太子ご一家は毎年浜名湖へ静養においてにありますが、今年も7月24日から28日までの五日間、西気賀の平野社団保養所にご滞在になり、楽しい夏休みをお過ごしになりました。

中学一年生になられた浩宮様はたくましい少年に成長され、ワンパク盛りの礼宮様もますます元気にヤンチャぶりを発揮、ご一家おそろいで浜名湖遊覧や水泳に興じられました。ヤマハSTR-25FBはその御召船として供され、またSTR-16四艇は供奉船は護衛船として活躍。ご一家の夏休みの良き思い出のページを飾りました。



おそろいで夏の休暇を楽しまれる皇太子ご一家

駿河湾でボート釣り大会開く

ポイントからポイントへすばやく移動できるモーターボートの利点が買われて、ボート釣りはますます盛んになっています。8月13日、ヤマハ静岡の主催で釣大会が行なわれました。

県内オナーズクラブの親睦をはかる目的で催されましたのですが、出場者は一二〇名、四五艇にもものぼり、焼津港から清水市三保の松原、朝8時から11時半までの間で競技が行なわれました。釣天狗たちはそれぞれ自慢のボートでポイントを確保して腕を競いましたが結局、25cmのキスを釣りあげたKさんが大物賞、25kgを釣りあげたM艇が大漁賞ときました。



でっかいソーダガツオを釣りあげ大喜びのお客さま

能登穴水にマリーナオープン!

北陸、山陰地方は環境のよさにかかわらず開発が遅れ、マリーナなどの設備が不足していましたが、このほど穴水にマリーナが完成、盛大なオープン披露が行なわれました。

穴水マリーナは能登半島のほぼ中間、富山湾に面した静かな入江にあり、あすなろと赤松林に囲まれた景勝地に出現した近代的マリーナとして話題を集めました。

近くには別荘の分譲地があり、この売出しにはヤマハ9がサービスされるといっているので人気を呼んでいます。穴水マリーナにはすでに販売済となった区画分のヤマハ9が45艇納められていて、一地区としては最高の普及率を誇っています。



にぎやかに行なわれたSTR-20CCRの進水式



ヨットの補助エンジンとして活躍するP-65



ヨーロッパではラバホートと呼ばれて人気がある

日本と同様、四方を海に囲まれたイギリスでも海上交通に、レジャーにと高性能を誇るヤマハ船外機はおおいにうけています。

当地のヤマハのディーラーであるサマーズさんは大小さまざまなヤマハ船外機をいろいろな船に取りつけてその用途を研究中です。日本のゴムボートに似たものは、イギリスでレジャーやレース用に使われているもので、サマーズさんはこれに強力なP-450を付けてレーサーとしてのテストをしているところですが、またヨットの補助エンジンとしては、取扱いの便利なP-45やP-65が最適のようです。

ヤマハ イギリスの海でも活躍



美しいモスクを背景に行なわれた展示会場



日本ではこの数年、ウォータージェットを楽しむ人々の数が急速に増えてきていますが、北をカスピ海、南をペルシア湾にはさまれた国イランでも最近、レジャー、実用の両面にわたって船外機への関心が非常に高まっています。

そこでカスピ海に近い首都テヘランのヤマハの代理店は、この六月に初めてポートショーを盛大に開催し、大好評を博しました。

このショーは、そばにアラブ世界特有の美しいモスクの建っている国際見本市会場プールで行われました。集った約千五百人の人達はプールサイドに展示されたヤマハ船外機などを間近に見、又プールで行われた製品デモンストレーションにすっかりひきつけられていました。

イランでも好評 ヤマハ船外機



オランダ語も板について張りきる久都さん（右はし）

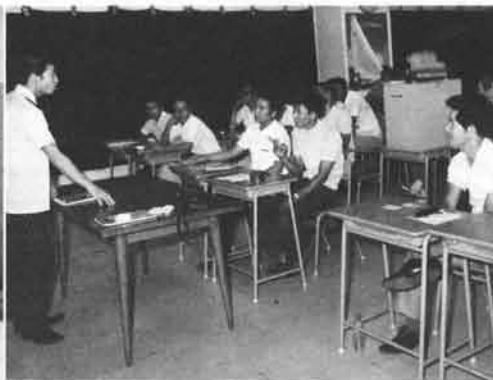
オランダ、アムステルダム郊外にあるポートシヨップ「ポート・セントラム」に久都壮さん(30)がヤマハ船外機のモーターセールスマンとして活躍しています。久都さんは愛媛県宇和島の出身で3年前までヤマハのポート課に勤務していました。が海外飛躍の夢を実らせるため円満退社。単身イタリヤの漁船に乗り込んで渡欧、その後はヨーロッパ各国を転々とする無銭旅行を続け、結局船外機やポートがいちばん商売になるオランダが最適ということで現在の会社に就職しました。

さすがヤマハの元社員、ヤマハ船外機のトップセールスマンとしてダツシユ。世界の有名ブランドがひしめく同社のなかでもぐんぐん業績をあげました。現在では久都さんの努力が実を結んでヤマハの売上も急上昇、久都さんも近々青い眼のお嫁さんを迎え、ゆくゆくは船外機、ポートのセールスエンジニアとして独立したいという大きな夢をえがいています。

オランダで頑張る 元ヤマハマン

各地でボート安全運転講演会開く

●東京、名古屋●



盛況だった東京支店のヤマハ海上安全講習会



うれしい小型船舶操縦士免許も授与されてセーフボートイングへ仲間入り。



本格的な「正しい航法」の講演が行なわれた名古屋支店会場。

このところモーターボートによる不祥事件が相次いで、新聞などに大きな社会問題としてとりあげられ、モーターボートのあり方が新ためて世に問われるということになりました。一部のボートマンの不注意によってモーターボート全体が批判されたり攻撃されることは誠に残念なことです。

ヤマハはモーターボートの安全をはかり健全なマリンスポーツとして発展することを願って早くからヤマハ海上安全パトロールを実施、全国各地で小型船舶操縦士免許取得のための入門者講習会、ボートユーザーの技術向上を目的とする安全講習会、安全な走航を指導するマリナーパトロールなどを行なっておりましたが、このような時局にかんがみ一層その体制を強化してみなさまの便宜をはかりたいと考えています。

その一環として東京支店では8月20日、「ヤマハ海上安全講習会」が催されました。これは今度新たに小型船舶操縦士免許を取得された一四四名の方々を対象に、ボートの安全運転思想の普及と認識を深めるために開かれたもので、末永一等航海士の講演とセーフボートイングのライド上映が行なわれました。

一方名古屋支店では8月23日、北店の服部店長自らが講師となつてこれまでの長いキャリアを総動員して「正しい航法」の講演を行ないました。この日は主にコンパスの必要性、種類、取りつけ方、使い方についてでしたが、実際に海図を開いてかなりつつこんだ実技指導という形で講義が行なわれたものです。

会場には20名あまりのボートマンが参加して熱心に耳をかたむけていました。講義の前後には数々のボート映画も上映されて楽しさももりこんだボートの集いでした。この講習は三回にわたつて行なわれます。

海外こぼれ話

レースのスターターは
マーガレット王女さま

今年第一回のロンドン・モンテカロール2700マイルの外洋モーターボート・レース12は腕と度胸と尻の皮の厚いオフショア・ボートマンを乗せた22隻のボートが参加。33フィートの英国艇HTSチームが優勝した。

もちろん、2700マイルをノンストップで走り続けるわけはなく、レース・コースに沿ったイギリス・フランス、スペイン、ポルトガルの四ヶ国14のステーション（仲継港）にピットインしながら、えんえん2週間におよぶ大レースを行つたわけ。オカネとヒマとドキョーのあるキミならひとつ参加してみても、次は10月13日スタートのマイアミ・ナッツソー・レースだ！！

無法ボートを撃退した
モリ打ち銃のはなし

4400万人という途方もないボート人口を擁するアメリカでも、最近では一部の心ない無法ボートの横行が悩みのタネ。ウイスコンシン州の湖の

漁師さんは、ハイパワーのスPEEDボートの曳き波におどかされたり、水飛沫を頭から浴びせかけられてカンカン。

奴らをそばへ近寄せない工夫はないものか……と頭をしぼつたあげくに、ボツブさんが漁船のヘサキに据え付けたのは、遠目には機関銃ソックリの木製のモリ打ち銃。ユーモアたっぷり鉄兜までかぶつたボツブさんのボートにはそれ以来近寄るものなしというグンバツな戦果。おかげでいつも大漁だそう。

プレジューアボートも
サイドスラスター時代

客船やフェリーボートの発着に効果を發揮しているサイド・スラスター（船底から一定方向に水流を噴射して、操船を助ける、補助推進装置）が、アメリカではついに40フィート級のモーター・クルーザーにも装備されるようになってきた。海水を吸入し、水勢を強め、自由に方向を変え水流を噴射する……。一台のポンプとパイプからなる、ごく簡単な仕掛けなのだが、効果はバツグン。ボートの発着に冷や汗いっっぱいのゴジンは早目にサイドスラスターをボートに装備してみたら……。

POSTER



YAMAHA 21

新しいヤマハセールボートのポスターが完成しました。
このほど誕生した期待のニューセールボートYAMAHA21が海原を疾走する晴れやかな姿を画面いっぱいに表示したものです。
それと同時にYAMAHA15、YAMAHA9のポスターも一新、潮風を呼びおこすようなムードあふれるものばかりです。
あなたのお部屋、または、お店の装飾用にぜひお役立ててください。

“潮風を呼ぶ”

B全サイズ ● YAMAHA21 ● YAMAHA15DX ● YAMAHA 9



YAMAHA 9



YAMAHA 15DX

●なお詳しくは各地のヤマハ支店、ヤマハ特約店、販売会社、営業所にお問合わせください。



この秋を安全に楽しく

ヤマハボート安全パトロール

ヤマハでは、ボートユーザーの技術の向上を目的とした講習会から、広く海のレジャーに関心を持つ人びとまでを対象にした安全講習会、あるいはマリーナにおける安全指導、水面パトロールなど、種々の活動を行なう「ヤマハボート安全パトロール」を全国的規模で実施して、健全な海洋レジャーの振興を図っています。



- ボートユーザー安全講習会
走行水面の安全指導
ボート安全講座
小型船舶操縦士免許説明会
ボート安全講演会
- ボート入門者安全講習会
ボート安全講座
小型船舶操縦士免許説明会
- ボート安全マリーナパトロール
マリーナ・カウンターチェック
安全航行10訓シンボルボードの設置
水面パトロールの実施

なお詳しくは各地のマリーナ、ヤマハ支店、ヤマハ特約店、販売会社、営業所にお問合わせください。